

「委託試験成績（平成21年度）」

担当機関名、部・室名	大分県農林水産研究センター 畜産試験場 草地担当・酪農担当
実施期間	平成21年度～平成23年度
大課題名	III. 水田を活用した資源作物の効率生産・供給技術の確立
課題名	飼料用米利用技術の確立
目的	バイオエタノールや石油価格高騰の影響を受け輸入穀物の価格が高騰している。特に高泌乳牛の飼育においては穀物飼料は無くてはならないものであり、輸入に依存している飼料用穀物（トウモロコシ）の県内で確保できる代替飼料が必要である。 そこで、水田の活用と穀物飼料の確保をふまえ、試験では飼料米の利用・保存方法と、泌乳に与える影響について検討する。
担当者名	草地担当：中島伸子、酪農担当：内村誠
1. 試験場所	畜産試験場内 草地担当および酪農担当（乳牛舎）
2. 試験方法	
(1) 供試機械名	ガーデンエンジンシュレッダー、焼米機、粉碎機、脱芒機
(2) 試験条件	
作物名	飼料用米（品種名：タカナリおよびホシアオバ）
【試験1】	破碎方法の違いが破碎率に与える影響について
○破碎方法の検討	
材料	乾燥した飼料用米（佐伯市弥生産 品種：タカナリ）
1.	ガーデンエンジンシュレッター（GFS-45NS）による破碎区
2.	焼米機（モンデン式）による破碎区
3.	粉碎機（25型）による破碎区
4.	脱芒機（試験用小型脱穀機R-7型）による破碎区
5.	粉碎区（対照区） 5区設定
破碎率、作業時間調査	
【試験2】	乾燥米の給与技術の検討
供試牛	ホルスタイン種 摺乳牛6頭（泌乳中後期）
給与方法	TMR（粉碎米投与）
試験方法	3頭×2群（うち対照区1群） 1期3週間×3期の二重反転法
表1. 試験方法、および期間	
	供試牛 1期目 2期目 3期目
I区	3頭 飼料米給与 慣行給与 飼料米給与
II区	3頭 慣行給与 飼料米給与 慣行給与
試験期間	— 21日間 21日間 21日間
※	事前の慣らし期間14日間はI、II区共に飼料米給与

3. 試験結果

【試験 1】

- ①破碎処理後の破碎率は焼米機で 97.0 %と高かった(表 1)。
 ②作業速度はガーデンエンジンシュレッダーがすぐれていた(表 2)。

【試験 2】

- ①搾乳牛に飼料米を TMR 中の乾物割合で 13.5 %混合給与しても、対照区と比較して飼料摂取量に有意な差は見られなかった(表 3)
 ②乳量、乳成分ともに対照区と比較して、若干の数値の低下があるものの有意な差はみられなかった(表 4)
 ③ルーメン内 pH、血液性状については、飼料米給与区・対照区ともに有意な差はみられなかった(表 5、表 6、表 7)。

4. 主要成果の具体的データ

表1 飼料用米(タカリ)の破碎率

処理方法	粉の形が残っているもの		玄米の形が残っているもの		玄米等 かけら	糊穀・ ワクス等	3mm ふるい下	破碎率	備考
	うち粉が割れているもの	うち粉が割れないもの	うち玄米が割れていないもの	玄米が割れているもの					
破碎前	98.3%	1.0%	0.0%	0.1%	0.1%	0.5%	0.0%	1.7%	
ガーデンエンジンシュレッダー	5.9%	1.9%	0.0%	1.4%	0.5%	1.4%	88.9%	94.1%	破碎時水分15%
焼米機	3.0%	0.0%	0.0%	54.5%	1.3%	5.9%	35.4%	97.0%	破碎時水分15%
糊摺機	2.5%	5.9%	3.3%	67.0%	0.7%	20.6%	0.0%	94.2%	破碎時水分15%
脱芒機	83.9%	6.3%	1.0%	3.9%	0.6%	4.3%	0.0%	15.1%	破碎時水分15%

* 粉や玄米に少しでも傷が入っているものは破碎とみなした。

表2 各破碎方法による作業速度

処理機	ガーデンエンジンシュレッダー	焼米機	糊摺機	脱芒機
作業速度	1分/5kg	5分/5kg	6分/5kg	26分/5kg

表3. TMR の配合割合 (DM%)

	飼料米給与区	対照区
飼料米	135	0
イタリアライグラス乾草	122	137
トウモロコシサイレージ	11.3	127
ヘイキューブ	10.8	121
ビートパルプ	8.0	8.9
フスマ	10.6	11.9
乳牛用配合飼料	22.5	25.3
緑夷	7.0	3.2
トウモロコシ圧ペン	4.1	12.2
TDN(可消化養分総量)	74.2	74.4
CP(粗蛋白質)	14.5	14.5
乾物摂取量(kg)	23.54±5.14	22.49±3.92

注)乾物摂取量については平均値±標準偏差

区間に有意差無し(P<0.05)

表4. 乳量および乳成分

項目	飼料米給与区	対照区
乳量(kg)	27.07±5.91	30.14±5.95
FCM乳量(kg)	26.27±5.57	26.98±3.71
乳脂肪率(%)	4.01±0.95	4.23±0.87
乳蛋白質率(%)	3.58±0.44	3.65±0.52
乳糖率(%)	4.49±0.22	4.57±0.22
無脂固形率(%)	9.06±0.48	9.23±0.57
全固形率(%)	12.95±1.33	13.46±1.28
体細胞数(千個/ml)	78.4±151.2	125.6±162.4
MUN(mg/dl)	9.73±1.44	9.46±1.92

注)平均値±標準偏差

注)各区間に有意差無し(P<0.05)

表 5. ルーメン内 pH 値

	飼料米給与区	対照区
ルーメン内pH値	6.58±0.29	6.47±0.37

注)平均値±標準偏差

注)各区間に有意差無し(P<0.05)

表 6. 血液性状①

項目	飼料米給与区	対照区
GOT(u/l)	59.67±14.18	65.89±14.69
GGT(u/l)	26.00±6.16	30.22±6.11
T-BIL(mg/dl)	0.33±0.08	0.29±0.13
Ca(mg/dl)	8.31±1.85	8.97±0.52
IP(mg/dl)	6.04±0.97	6.04±0.54
T-CHO(mg/dl)	207.44±54.60	226.00±45.86
TP(g/dl)	6.03±1.09	6.72±0.64
NH3(μg/dl)	192.33±70.95	213.67±52.99
BUN(mg/dl)	10.24±1.64	9.53±3.35
CRE(mg/dl)	0.64±0.21	0.79±0.12

注)平均値±標準偏差

注)各区間に有意差無し(P<0.05)

表 7. 血液体状②

項目	飼料米給与区	対照区
白血球数(10 ⁴ /μL)	97±14.45	96.11±13.23
赤血球数(10 ⁴ /μL)	658.11±58.23	657.56±59.26
ヘモグロビン(g/dl)	10.18±1.24	10.24±1.00
ヘマトクリット(%)	29.79±3.49	30.00±2.88

注)平均値±標準偏差

注)各区間に有意差無し(P<0.05)

5. 経営評価

飼料米の粉碎料金は 5 円/kg であり、ガーデンエンジンシュレッダーの価格 78,900 円であれば、粉碎にかかる労賃を考えない場合、約 2.2 h/a 分(700kg/10a の場合)の処理で採算がとれる。また、粉碎加工を委託する場合には加工場までの運賃も考慮する必要がある。

6. 考察

【試験 1】

破碎処理後の破碎率は焼米機が最も高かったが、粉摺機、ガーデンエンジンシュレ

ッダーも 90%を超えていた。また、作業速度はガーデンエンジンシュレッダーでの作業が最も速かったことから、農家が所有可能な既存機械でも粉米の破碎が十分可能であることが示唆された。

【試験 2】

(1) トウモロコシの代替飼料としての可能性

粉を破碎した飼料米をトウモロコシの一部代替として乾物で 13.5 %程度使用しても、乳量、乳成分、ルーメン内 pH および血液性状に影響はなく、搾乳牛で給与が可能である。

(2) メリットおよびデメリット

飼料米を使用するメリットとしてはトウモロコシの代替となり得る濃厚飼料を国内産で貰うことができ、玄米ではなく粉がついたまま破碎処理したものを給与することにより粉摺り費用が削減できると考えられる。

7. 問題点と次年度の計画

【試験 1】

破碎した乾燥飼料用米の乾物消失率をナイロンバッグ法で確認する。

また、未乾燥飼料用米のソフトグレインサイレージの保存性の確認を行う。

【試験 2】

(1) 飼料計算上、飼料米をトウモロコシの一部代替にすることは可能と思われるが、現状ではコストの面の検討が必要。

(2) 次年度実施予定の飼料米のソフトグレインサイレージ給与試験で嗜好性と保存性の改善を検討する。

8. 参考写真

写真 1. 飼料米（焼米機による破碎区・試験 2 で給与したもの）

